

## 教育大綱関連事業の令和元年度の成果と取り組みの方向性について

## ◆幼児期の取り組み

すべての子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します

(決算額: 14,297,506 千円)

<主な事業>

## ◎病児保育事業（ほいく課）

目的	病児保育の実施により保護者の就労等を支援します。			
手段・手法	・市内の民間病児保育施設に補助金を交付するほか、市立病院の敷地内に設置する病児保育施設において病児保育を実施します。			
R元年度の 実績(成果) 等	指標	実施延べ人数		H30 決算
	予定 (目標)	1,455 人		33,368 千円
	実績	1,981 人		R元予算現額
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当面症状の急変は認められないが、病気の回復期に至っていないことから、集団保育が困難であり、保護者の勤務等の都合により家庭で保育を行うことが困難な小学校6年生までの児童を対象に実施しました。</li> <li>・4月より十六山病児保育室Bambiniが事業を開始しました。</li> </ul> <b>【事業内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業箇所: 3か所(15人×2か所、4人×1か所)</li> <li>・利用実績: もみの木医院病児保育 年間 1,379人</li> <li>十六山病児保育室Bambini 年間 323人【新設】</li> <li>大和市病児保育室ぽかぽか 年間 279人</li> </ul>			R元決算
				49,613 千円
R2年度の 取り組み	・入院加療の必要はないが、就労等の理由により家庭で保育ができない病児の預かりを実施します。(3か所)			R2 予算
R3年度の 方向性	・今後も、利用実績を見ながら、事業内容及び実施施設等について検討するとともに、広報活動を行うことで必要な時に利用ができるよう事業の周知を図ります。			59,011 千円
				R3 事業費の 方向性
				概ね同水準を 予定

◆義務教育期の取り組み

新しい時代を生きる子ども 1 人ひとりの確かな学力を育みます

(決算額:1,373,452 千円)

<主な事業>

◎特別支援教育推進事業（指導室）

目的	教育上配慮を要する児童生徒に対し、教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援を行うことにより、特別支援教育の充実を図ります。				
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の小中学校を対象に、必要に応じて特別支援教育ヘルパーを配置します。</li> <li>市内の小中学校を対象に、特別支援教育スクールアシスタントを配置します。</li> <li>大和市特別支援教育巡回相談チームを各学校の要請を受け派遣します。</li> <li>医療的ケアの必要な児童・生徒が在籍する学校に看護師を派遣します。</li> <li>特別支援教育における専門的な研修の充実を図ります。</li> </ul>				
R 元年度の 実績(成果) 等	指標	特別支援教育ヘルパーの配置人数	特別支援教育スクールアシスタントの配置人数	特別支援教育巡回チームの派遣回数	特別支援学級新1年生に関する関係機関との連絡会
	予定(目標)	87 人	36 人	150 回	8 件
	実績	87 人	36 人	114 回	7 件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校に特別支援教育ヘルパー及び特別支援教育スクールアシスタントを配置し、支援を必要とする児童生徒の介護や学習支援等にあたりました。</li> <li>特別支援教育巡回相談チームを要請のあった小中学校に派遣し、保護者及び教職員を支援しました。</li> <li>医療的ケアの必要な児童・生徒に対応するため、看護師を3校に派遣しました。</li> <li>4月に大和市特別支援教育センター「アンダンテ」を開設し、様々な相談業務や通級指導教室の整備運営を行いました。</li> </ul>				
R2 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関する専門性の高い機能を持つ大和市特別支援教育センター「アンダンテ」を中心に、学校との「つながり」を大切にしながら、児童生徒や保護者への切れ目のない支援を推進します。</li> <li>小中学校に特別支援教育ヘルパー及び特別支援教育スクールアシスタントを配置し、支援を必要とする児童生徒の介護や学習支援等にあたります。また、増加するニーズに対応するため、特別支援教育ヘルパーを9名増員します。</li> <li>特別支援教育巡回相談チームを要請のあった小中学校に派遣し、保護者及び教職員への支援を行います。</li> <li>医療的ケアを要する児童・生徒に対応するため、看護師を5校に派遣します。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、特別支援教育に係る研修の延期などの影響が出ましたが、感染予防策を講じるなどの対応をし、引き続き経験の浅い教職員に対する特別支援教育の研修の充実を図ります。</li> </ul>				
R3 年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を必要とする児童生徒が増加傾向であることを踏まえ、多様化する教育的ニーズへ対応できるよう、体制を強化していきます。</li> <li>入学前に所属していた療育機関との連携を取り、切れ目のない一貫した支援を充実していきます。また、教職員の特別支援教育に関する専門性を向上させるため、研修会や巡回相談についても充実させます。</li> <li>医療的ケアが必要な児童生徒に対し看護師を配置するなど、医療的ケア実施体制の充実を図ります。</li> </ul>				

H30 決算	96,378 千円
R 元予算現額	103,760 千円
R 元決算	92,592 千円
R2 予算	123,287 千円
R3 事業費の 方向性	増加の見込み

<主な事業>

◎青少年指導者育成支援事業（こども・青少年課）

目的	地域で青少年健全育成を進める団体の協議会活動を支援し、指導者を養成することで、青少年が活動しやすい環境を構築します。				
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で青少年健全育成を進める3団体については、補助金による運営費の支援と、行政内に事務局を置く人的な支援を行っています。</li> <li>・青少年育成団体や中高生ボランティア等が主体となり、青少年を対象としたイベントを開催します。</li> <li>・さらに指導者の資質の向上のための研修も開催しています。</li> </ul>				
R元年度の実績(成果)等	指標	青少年指導員年間活動数	市子ども会連絡協議会加入子ども会数	青少年センターまつり参加団体数	子どもの外遊び地域イベント開催地区数
	予定(目標)	420回	29団体	3団体	12地区
	実績	430回	29団体	3団体	12地区
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年育成三団体に対して補助金交付等の支援を行い、また、青少年を対象としたイベントを委託開催することで、青少年健全育成を推進しました。</li> <li>・市内12地区で、趣向を凝らした子どもの外遊び地域イベントを実施しました。</li> </ul> <p><b>【事業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年指導員の人数 107人</li> <li>・外遊び地域イベントの開催地区数 12地区</li> </ul>				
R2年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で青少年の健全育成を進める3団体に、補助金による支援と、行政内に事務局を置き人的な支援を行い指導者の育成を図ります。</li> <li>・子どもの外遊び地域イベントについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とします。</li> </ul>				
R3年度の方角性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局として各団体が効果的、効率的な運営ができるよう、助言等の支援をしていきます。</li> <li>・外遊びを取り入れた事業について、内容の充実を図っていきます。</li> </ul>				

H30 決算
6,745 千円
R元予算現額
7,553 千円
R元決算
6,795 千円
R2 予算
7,686 千円
R3 事業費の方角性
概ね同水準を予定

<主な事業>

◎いじめ等対策事業（指導室）

目的	市立小中学校におけるいじめの撲滅を目指すとともに、子どもたちが安心して学校生活を送れるような学校づくりに取り組みます。			
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止を学校指導者・地域で考え、行動に移せるよう教育フォーラムを開催します。</li> <li>学級の状態や個人の成長の様子を客観的に把握し、より良い集団づくりやいじめ・不登校の防止に役立てるために学級集団アセスメントテストを実施します。</li> <li>児童支援中核教諭に伴う非常勤講師を配置します。</li> <li>全小中学校に対して児童・生徒指導研修会(訪問研修)を実施します。</li> <li>スマートフォン用の匿名報告・相談アプリケーションを市内全生徒が利用できる環境を整備します。</li> </ul>			
R元年度の 実績(成果) 等	指標	リーフレットの 配布枚数	フォーラムの 開催回数	スマートフォン用 アプリケーション 登録率
	予定 (目標)	4,500 枚	1 回	8%
	実績	4,500 枚	1 回	7.27%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全小学校において指導体制の充実を図るため、児童支援中核教諭を校内から選任し、その授業代替要員として非常勤講師を配置しました。</li> <li>大和市のいじめ防止基本方針に基づき、いじめ問題対策連絡協議会や、いじめ問題対策調査会を定期的に開催しました。</li> <li>学級集団アセスメントテスト及びテスト活用研修を実施しました。</li> <li>スマートフォン用の匿名報告・相談アプリケーション「STOP it」の導入により、生徒からの相談が寄せられ、いじめ解決の一助になりました。</li> </ul>			
R2年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ・不登校の更なる減少を図るため、全小学校5年生及び全中学校1年生を対象に学級集団アセスメントテストを実施します。</li> <li>全小学校において指導体制の充実を図るため、児童支援中核教諭を校内から選任し、その授業代替要員として非常勤講師を配置します。</li> <li>大和市のいじめ防止基本方針に基づき、いじめ問題対策連絡協議会や、いじめ問題対策調査会を定期的に開催します。</li> <li>いじめ・不登校に関するフォーラムを開催します。</li> <li>匿名報告・相談アプリ「STOP it」の運用を行うとともに市内全生徒への周知を図ります。</li> </ul>			
R3年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーフレットの配布やスマイルウェブの開催及び児童生徒研修会(訪問研修)について、いじめを生み出さない環境づくりと、児童生徒の小さな変化を見逃さない感性を磨くこと、児童生徒・保護者とのコミュニケーションスキルアップなど、内容の充実を図ります。</li> <li>匿名報告相談アプリ「STOP it」への登録率の向上を図ります。</li> </ul>			

H30 決算	19,578 千円
R元予算現額	20,638 千円
R元決算	19,706 千円
R2 予算	20,276 千円
R3 事業費の 方向性	概ね同水準を 予定

<主な事業>

◎いじめ等対策事業（指導室）【再掲】

※いじめ等対策事業は、「方針④安全で安心して学校生活を送れる環境を整えます」と「方針⑤多様性を尊重し、他者と共に生きる社会性を育みます」における主な事業として扱います。

<主な事業>

◎学力向上対策推進事業（指導室）

目的	児童生徒への学習支援を行うとともに、特に小学校の若手教員の指導力を養うことで、総体的に学力の向上を図ります。		
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校寺子屋」と「放課後子ども教室」を相互に連携させ、小学校の放課後における学力向上対策推進事業を効果的に実施します。</li> <li>・「小学校放課後寺子屋やまと」及び「夏休み寺子屋やまと」を開催します。</li> <li>・小学校教員の指導力向上のための支援を行います。</li> <li>・中学校において「中学校寺子屋やまと」を開催し授業中及び放課後の学習支援を行い、また、長期休業中における学習支援を併せて行います。</li> </ul>		
R元年度の 実績(成果) 等	指標	放課後寺子屋やまとの開催校	中学校寺子屋やまとの開催校
	予定 (目標)	19校	9校
	実績	19校	9校
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校寺子屋」と「放課後子ども教室」の連携の充実を図り、小学校の放課後における新たな学習支援体制の礎を築きました。</li> <li>・小学校全校において、「放課後寺子屋やまと」を開催し、児童の学習支援を行いました。</li> <li>・経験の浅い小学校教員に対する指導を実施し、授業力の向上を図りました。</li> <li>・中学校全校において、「中学校寺子屋やまと」を開催し、授業中及び放課後の学習支援を行いました。</li> <li>・小中学校において、「夏休み寺子屋」を開催し、長期休業期間中における学習支援を行いました。</li> </ul>		
R2年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校全校において、「放課後寺子屋やまと」と「放課後子ども教室」の日程を調整し、4月から平日週5日、いずれかの事業を開催します。</li> <li>・「放課後寺子屋やまと」における学習支援員を増員することで、学習支援の充実を図ります。</li> <li>・指導主事が学校へ出向き、学校の研究や授業の指導等について助言するとともに、経験の浅い小学校教員に対する指導を継続的に実施し、授業力の向上を図ります。</li> <li>・中学校全校において、「中学校寺子屋やまと」を実施します。</li> <li>・夏季休業を短縮したため、小中学校では「夏休み寺子屋」の開催は行わず、「放課後寺子屋」「放課後子ども教室」の開催日を増やし(放課後子ども教室については小学校のみ)、学習支援を行います。</li> </ul>		
R3年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の放課後事業として「放課後寺子屋やまと」「放課後子ども教室」のいずれかを開催することで、全ての児童が参加しやすい環境・人員を整え、より細やかな指導を目指します。</li> <li>・「中学校寺子屋やまと」の事業が学校に浸透してきており、参加生徒は増加傾向にあります。今後もきめ細やかな支援をするため、中学校学習支援員の増加も含めた支援体制の見直しを検討していきます。</li> </ul>		

H30 決算	137,790 千円
R元予算現額	146,134 千円
R元決算	139,120 千円
R2 予算	227,093 千円
R3 事業費の 方向性	増加の見込み

◎放課後子ども教室管理運営事業（こども・青少年課）

目的	放課後に児童の安全・安心な居場所を設け、異なる学年や地域の方々の交流を通じ、児童の健全育成を図ります。				
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の余裕教室等を活用し、地域の方々からなる学習アドバイザー及び安全管理員を配置します。</li> <li>・安全管理員が企画した様々な遊びや交流活動等を実施することで、世代間交流などによる児童の協調性や社会性を養う場を創出します。</li> </ul>				
R元年度の 実績(成果) 等	指標	放課後子ども教室 の設置数	放課後子ども教室 の延べ開設日数	放課後子ども教室 の延べ参加人数	H30 決算
	予定 (目標)	19 校	1,800 日	100,000 人	43,152 千円
	実績	19 校	1,591 日	85,619 人	R元予算現額
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後に使い慣れた学校施設を開放し、安心して安全な居場所を提供しました。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、全ての市立小学校が臨時休業になったことに伴い、3月は開催を中止しました。そのため、開催日数や参加人数が減少しました。</li> </ul>			
R2年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室は、令和2年度から学力向上対策推進事業に移管しました。</li> </ul>				R元決算
R3年度の 方向性	—				39,696 千円
					R2予算
					—
					R3事業費の 方向性
					—

◆ 幼児期～義務教育期～青年・成人期の取り組み

健康に関する教育を推進します

(決算額:352,646 千円)

<主な事業>

◎ 児童健康管理事業・生徒健康管理事業（保健給食課）

目的	疾病の早期発見と予防、健康の保持増進を図ります。		
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医等による定期健康診断、尿検査、心臓病検診を実施します。</li> <li>・必要に応じ精密検査を行い、複数の医師により組織された判定委員会で治療勧告等を行います。</li> <li>・保健室における健康診断、健康相談、救急措置等に必要な備品の新規購入及び更新を行います。</li> </ul>		
R 元年度の 実績(成果) 等	指標	検診回数	判定会・検診委員会・対策委員会開催回数
	予定 (目標)	84 回	5 回
	実績	84 回	5 回
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医による内科検診、歯科検診、耳鼻科検診、眼科検診、尿検査、心臓病検診を実施しました。</li> <li>・市が必要に応じ精密検査を行い、複数の医師により組織された判定委員会で治療勧告等を行いました。</li> <li>・保健室における必要な備品の新規購入及び更新を行いました。</li> </ul>		
R2 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における感染症対策のため、保健衛生物品などを購入します。</li> <li>・学校医等による定期健康診断、尿検査、心臓病検診を実施します。</li> <li>・市が必要に応じ精密検査を行い、複数の医師により組織された判定委員会で治療勧告等を行います。</li> <li>・保健室における健康診断、健康相談、救急措置等に必要な備品の新規購入及び更新を行います。</li> </ul>		
	R3 年度の 方向性		
・今後も児童生徒の健康保持増進を図っていきます。			

H30 決算	56,131 千円
R 元予算現額	57,914 千円
R 元決算	57,006 千円
R2 予算	59,192 千円
R3 事業費の 方向性	概ね同水準を 予定

<主な事業>

◎図書館管理運営事業（図書・学び交流課）

目的	図書館の円滑な管理運営を行います。			
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者制度を活用し、図書館の管理運営を行います。</li> <li>・図書館の運営に必要なインフラの管理をします。</li> </ul>			
R 元年度の 実績(成果) 等	指標	指定管理者との協議回数		H30 決算
	予定 (目標)	12 回		522,986 千円
	実績	14 回		R 元予算現額
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者による渋谷図書館の管理運営を開始しました。</li> <li>・令和元年度の来館者数は、大和市立図書館が入る文化創造拠点シリウスは約 302 万人、中央林間図書館は約 82 万人、渋谷図書館は約 16 万人となりました。</li> </ul>			565,670 千円
R2 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市立図書館、中央林間図書館及び渋谷図書館を同一の指定管理者による運営とすることで、一体的な図書館運営を目指すとともに、図書館城下町施策の推進に努めます。</li> </ul>			R 元決算
				561,929 千円
R3 年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市立図書館、中央林間図書館及び渋谷図書館を同一の指定管理者による運営とすることで、一体的な図書館運営を目指すとともに、図書館城下町施策の推進に努めます。</li> </ul>			R2 予算
				587,120 千円
				R3 事業費の 方向性
				概ね同水準を 予定



